



No.38

鹿児島県

Ⅰ. 県内の状況と課題

持続可能な部活動の体制づくりや学校の働き方改革の両方を実現するためには、「休日の部活動の指導を望まない教師が、休日の部活動に従事しなくてもよい環境の構築」、「休日の部活動の指導を希望する教師が、休日に指導できる仕組みの構築」、「希望する全ての生徒が、休日に地域においてスポーツ・文化活動ができる環境の構築」が必要であることから、与論町の実証を広く周知するとともに、各市町村教育委員会の意向を尊重しながら、それぞれの実態に応じて地域移行が円滑に進むよう支援することとしている。

県内の各市町村教育委員会においては、まずは運動部活動の地域移行に向けた実証事業を優先して取り組みたいとする意向が強く、令和5年度において、文化部活動の本事業への実施は与論町しかない状況であった。

一方で、取り組みたいという自治体があるものの、指導者を確保することが難しく、文化部活動の地域移行に向けた実証事業を見送った自治体もあったため、次年度に向けて意向調査を行ったり、指導主事会で事例を紹介したりするなど、市町村教育委員会へ働き掛けている。

県の取組

他部局との協力体制	◎
県内自治体への説明・周知	◎
関係者への理解促進	○
教員等への理解促進	○
保護者・生徒への周知・説明	○
教育施設活用手段の整備	△
参加費用負担の検討	△

Ⅱ. 取組内容と成果

関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備に関する取組

【取組内容】

- 部活動地域移行推進プロジェクトチーム幹事会会議、鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会を経て、令和5年5月に「学校部活動の地域連携や地域クラブ活動の在り方に関する方針」を策定し、各市町村教育委員会等に通知した。
- 部活動改革の地域移行に向けて取り組んでいる市町村（与論町・屋久島町）を訪問し、協議会や地域との連携の在り方、学校、顧問、地域指導者等から状況を把握するとともに、指導助言等を行った。
- 各教育事務所の指導課長等会議等において、「部活動の地域移行に向けた実証事業」等の周知に努めた。

【成果】

- 県の方針を踏まえ、各市町村においては協議会等を設置し、今後の取組について協議がなされるなど、部活動の地域移行に向けた取組が進んだ。
- 与論町では、継続して本事業に取り組むことにより、部活動の地域移行のねらい等が地域の方々に周知されるとともに、顧問の負担軽減がなされている。与論町教育委員会が教員にアンケートを実施したところ、「教員の負担を軽減できた。」「土日に休んで、家族と過ごすことができた。」「教員と地域指導員とのコミュニケーションがとても大切だ。」などとの好意的な意見が出された。また、生徒も部活動指導員と積極的にコミュニケーションをとりながら活動することができるようになってきているとのことである。
- 本事業の周知に努めたところ、本県の実施市町村が令和5年度の1件から令和6年度は増える見込みである。

参加費用負担の支援等に関する取組

【取組内容】

- 「部活動の地域移行に向けた実証事業」に取り組んでいる与論町から参加費用負担の支援等について状況を把握した。

【成果】

- 与論町では、保険料等の参加費用等については、町の予算から出しており、休日の部活動に係る参加費用等の負担はないとのことであった。
- 吹奏楽部においては、楽器等備品等の購入、修理費用等の捻出、移動費、楽器の運搬費の支出について、課題があることなどの情報共有を図った。

関係団体・分野との連携強化に関する取組

【取組内容】

- 「学校部活動の地域連携や地域クラブ活動の在り方等に関する方針」策定に当たり、文化部活動の関係団体にも御協力をいただいた。
- 「鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会」の委員に文化部活動の委員として、県中学校教育研究会音楽部会会長、県高等学校文化連盟会長に加え、令和5年度から県吹奏楽連盟理事長にも就任していただき、文化部の地域移行に係る現状を把握していただくとともに、指導者の質の保障・量の確保に係る現状や課題等について意見等をいただいた。
- 本事業を実施している与論町の関係団体等との連携について、各市町村に情報提供を行った。

【成果】

- 県部活動地域連携等推進協議会委員に県吹奏楽連盟理事長にも加わっていただいたことにより、全委員と文化部活動の地域移行に係る現状（コンクール等の在り方や本県吹奏楽の現状）や指導者の思い、課題等を共有することができた。
- 文化部活動の地域移行に向けた取組において、各市町村は与論町の関係団体との取組実践も参考にしながら、進めることができている。

Ⅲ. 地域移行に向けた課題・今後の方針

- 本県では、外部指導者の確保が課題となっている。特に吹奏楽においては、演奏者は多いが指導者の確保が難しい現状である。
- 本事業を継続して実施している与論町では、部活動指導員から「部活動の時間に合わせるのが難しい。」「顧問と打合わせをする時間確保が必要」との意見が出されるなど、顧問と部活動指導員のどちらがイニシアチブをとるか、生徒が戸惑わないよう指導方針の共有について、コミュニケーションを常に図りながら進めていくことが重要である。
- 吹奏楽連盟、合唱連盟等関係団体との更なる情報共有及び連携を図る。
- 本事業の継続及び新たに取り組む市町村との状況把握を行うなど連携を密に図る。
- 吹奏楽部の地域移行のねらいの地域の方々への周知を図る。

今後も県の基本的な考えに従って、これまでと同様に、県吹奏楽連盟等の学校部活動に関係する各団体・機関との連携を図りながら、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けての取組、市町村の取組を支援していきたい。



No.38-1

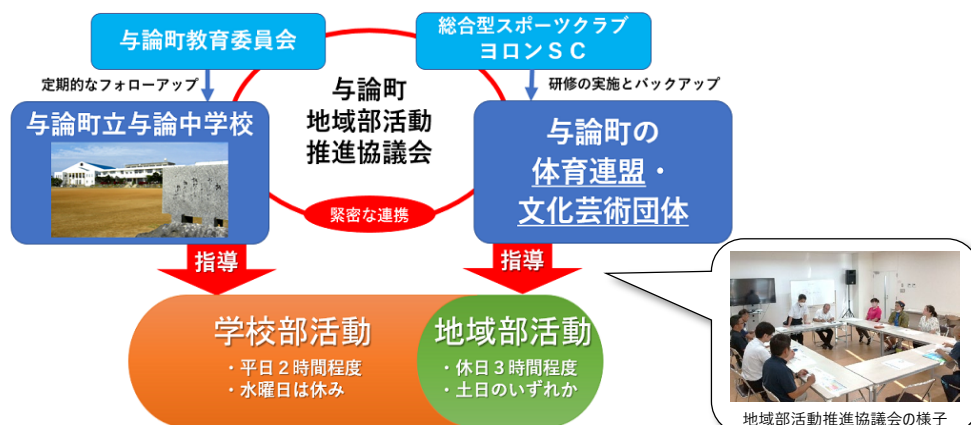
鹿児島県与論町

I. 基本情報

運営主体： 与論町地域部活動推進協議会

事業目標： 与論町立与論中学校の教員、生徒、保護者、地域の理解を得ながら「休日の部活動の地域移行」を適切に推進することにより、吹奏楽部の指導に係る教員の負担軽減を図るとともに、「生徒にとって質が高く、地域において持続可能な音楽環境」を構築する。

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

与論中学校の平日の学校部活動である「吹奏楽部」と接続する形で、吹奏楽の地域クラブ活動を設置する。その上で、町教育委員会が任用した地域指導者のうち教員以外の指導者には、部活動指導員として、平日の学校部活動での指導にも関わっていただく。ただし、学校部活動と地域クラブ活動に参加する生徒は同一であるため、平日・休日間の指導の接続を円滑にし、生徒や保護者の混乱を生じさせないよう、平日・休日どちらの活動についても、練習計画や指導方針は、吹奏楽部の顧問教諭（休日は地域指導者の一人）がインシニアチブをもって決めることを基本とする。このように、与論町立与論中学校の教員、生徒、保護者、地域の理解を得ながら「休日の部活動の地域移行」を適切に推進し、吹奏楽部の指導に係る教員の負担軽減を図る。

あわせて、休日の地域クラブ活動において教員以外の地域指導者を一層積極的に活用することにより、楽器演奏経験者による専門的な指導や、音楽家が有するステージ作りのノウハウ等を生徒の活動に取り入れる。

以上の取組を通して、「生徒にとって質が高く、地域において持続可能な音楽環境」の構築を目指す。

III. 成果

令和 6 年 2 月末時点における教員以外の地域指導者の指導実績は、平日は総計134時間、休日は総計92時間であり、令和 4 年度の「平日51.25時間、休日27.5時間」からそれぞれ大きく増えている。このことにより、顧問教諭が吹奏楽部の指導に従事する時間は前年度から一定量削減されており、顧問教諭の負担軽減につながっている。

また、教員以外の地域指導者たちが有しているネットワークや指導技術、ステージプロデュースのノウハウ等を生かして、生徒が地域のイベントで演奏する機会を増やすことを試みた。その結果、「与論町銀座通り祭り」や「満月音楽祭」、「ヨロン・おきなわ音楽交流祭」などで、地域プロデュースのステージが実現した。

これらのことにより、本事業で目指す、「生徒にとって質が高く、地域において持続可能な音楽環境」の構築が進んだ。今年度生徒や指導者に対して行ったアンケートやヒアリングにも、好意的な意見が数多く寄せられている。

【生徒の声】

- ・ 難しいリズムや、楽器の吹き方のアドバイスをしてくださっているので、助かっています。また、部員の人数が少ないので、地域の方がいらっしゃったときはすごく楽しく感じます。
- ・ 指導してくださる地域の方がいらっしゃることは本当にありがたいと思います。また、いろいろな地域のイベントを紹介していただくことで、私たちの活動の幅を広げてくださることがありがたいです。

（部員対象アンケートより）



IV. 課題と今後の方針

【課題】

顧問の教諭と地域指導者が指導方針等を共通理解したり、指導の役割を分担したりするための場を確実に設定する必要がある。

また、離島という環境下では、「音楽の知識と経験を一定程度有しつつ、吹奏楽部の指導に積極的な人材」の絶対数が他地区と比べて少ないため、安定的な人材確保については今後も大きな課題である。

【今後の方針】

今後も地域指導者の積極的・計画的な活用を進めるとともに、吹奏楽部の地域移行のねらいや現状を町民に周知したり、地域クラブ活動だからこそできる魅力的なステージ等を引き続き模索したりしながら、地域移行の取組を一層充実させたい。そのことにより、「生徒にとって質が高く、地域において持続可能な音楽環境」の構築を更に進めていきたい。



No.39

埼玉県さいたま市

I. 基本情報

運営主体： 合同会社ファウンテン（統括団体）

事業目標： 子どもたちが、地域の中で、自分の興味に応じてスポーツや文化活動を楽しむ環境を構築する持続可能な部活動運営を目指した統括団体の組織化の構築

団体・組織等の連携

指導者の登録・募集

さいたま市スポーツ協会 他
総合型地域スポーツクラブ・NPO法人・スポーツチーム・競技団体・スポーツ関連企業 等

さいたま市教育委員会

教員の兼職・兼業手続き

登録

統括団体

- 役割 ①指導者の募集・登録 ②指導者・運営管理者への謝金の支払い
③指導者への研修 ④指導者・生徒の保険管理
⑤運営管理者の派遣、支払い ⑥受益者の活動費の集金 ⑦運営管理全般

指導者・管理者派遣

指導者・管理者派遣

指導者・管理者派遣



モデル校



モデル校



モデル校

統括団体から派遣された指導者が
休日に指導（指導者は保険に加入）

活動種別

吹奏楽部・美術部・パソコン部

運営形態

地域移行・団体等運営型

活動場所

各学校音楽室など

鍵、校舎管理の工夫・現状

学校の管理者が管理

参加生徒の基本情報

人数：約70名

活動日：土日・祝日

活動時間：1回約3～4時間

指導者の基本情報

- ・兼職兼業の教員
- ・部活動指導員

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 214万円

II. 活動概要・取組

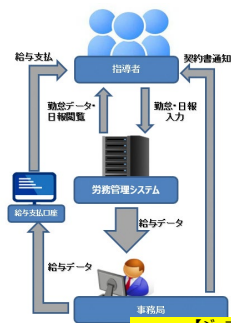
- 実証事業は学校の管理下外で行う。
- 事業は土日のみで行い、活動については、「さいたま市部活動の在り方に関する方針」に準ずる。
- 顧問が土日の指導希望の場合は、兼職兼業の手続き及び統括団体への指導者登録を行い、指導にあたる。
- 指導者の労務管理、給与明細、日報/月報の作成について、スマホで簡単にできる専用アプリの導入
- 兼職兼業の教員と部活動指導員を配置し、交流を図る。

III. 成果

- 専用アプリシステムの【ジョブカン】を利用し、指導者が携帯電話からボタン一つで簡単に、労務管理、給与明細、日報/月報の作成ができるようにした。また管理側もまとめやすく、業務効率化が図れた。
- 部活動指導員（一般指導者）と平日の顧問も、連絡を密にとることができて、連絡調整はスムーズに入れた
- またアンケート結果から、本取り組みは、教員の負担軽減につながりましたか？という設問に対して、6名中6名が、【そう思う】【どちらかというと思う】と回答した。
⇒本取り組みは、教員の負担軽減につながる施策であったと考えられる。



柏陽中吹奏楽部活動風景



【ジョブカン】システム

IV. 課題と今後の方針

- 指導者の確保
⇒吹奏楽、美術等は専門性の高い種目の為、人材バンクの構築、部活動指導員の拡充等の何らかのシステム構築が必要不可欠である
- 謝金
⇒運動部に比べ、文化部は全体的にも専門性が高く、また競技人口が少ない為、一人一人の指導者の価値が高く、現在の仕組みの運動部指導者と同じ謝金額では、担い手となる指導者が少ない。その為、謝金額については、今一度検討する必要がある。
- クラブ化および平日の開催
⇒文化部活動は、一つの作品を作り上げる活動が多く地域部活動を土日だけに限定せず、平日も実施できるように、クラブ化することを検討する必要がある



No.40

千葉県千葉市

I. 基本情報

運営主体： リーファス株式会社

事業目標： 文化部活動（吹奏楽部）の休日活動を、顧問教員から地域指導者による指導下での活動とし、生徒や保護者、学校・教職員における地域移行の課題を掘起こし、本市にふさわしい地域クラブの在り方を明らかにすることを目標とする。併せて、教育委員会が主体となり、地域指導者の掘起こしも実施する。

活動種別

吹奏楽部

運営形態

地域移行・団体運営型

活動場所

中学校音楽室

鍵、校舎管理の工夫・現状

鍵・警備機器の使用方法を地域指導者が使用可能となるよう調整

参加生徒の基本情報

人数：3校42人（10/16/16）
活動日：原則として毎週土曜日
活動時間：3時間
（活動日・時間は学校都合により変更となった場合もあり）

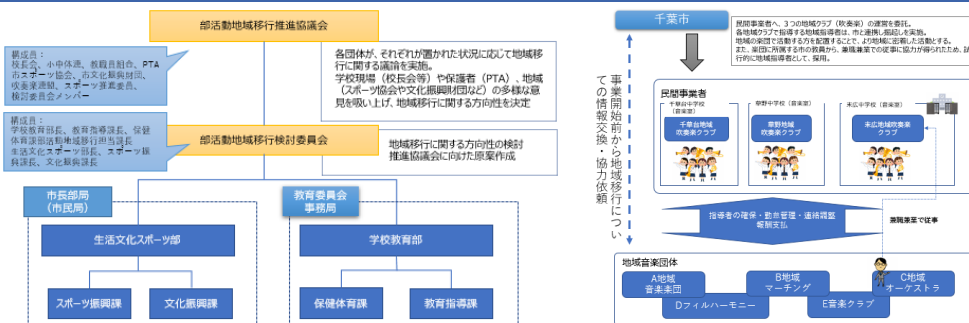
指導者の基本情報

地域楽団楽団員：5人
兼職兼業教職員：1人
時給：1,600円

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費	154万円
本市自主財源	0.1万円

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

- ・地域指導者の確保に当たっては、教育委員会が中心となり、地域で活動を行っている楽団にアプローチを実施した。市からは地域移行の取組の背景や今後の市の方針について、各団体からは地域指導者として活動できる人材の状況などについて、意見交換。
- ・意見交換を実施した団体のうち、指導者派遣が可能と回答いただいた団体を、別途公募で決定した運営団体に紹介した。運営団体は、条件が合致した地域指導者と面接及び研修等を実施したうえで、各地域クラブへ派遣することとした。
- ・各地域クラブには、原則として指導者2名を配置。可能な限り、2名は同じ楽団から選定し、指導者間の連携、指導方法の一貫性などを保てるよう取り組んだ。（1名は全体指導、1名が個別指導といった役割分担）
- ・地域指導者と顧問は、地域クラブ・部活動の円滑な運営のため、部の状況や練習方針などについて共通理解を図る。

III. 成果

- ・吹奏楽部は、普段より外部からの指導者を受け入れる頻度が高いことから、生徒は、地域指導者からの指導も違和感なく受け入れた様子であり、また、指導方法についても、「わかりやすい」「より専門的であった」といった感想を述べており、高い満足度を得ることができた。
- ・地域指導者も、自身の指導により、生徒の成長が見えることに高い満足度を得ている様子であった。
- ・学校も顧問教員の負担軽減を図ることができた。

- ・当初、地域連携の一環で直接地域団体から指導者を派遣してもらう、という方式を検討したが、指導者への研修や勤怠管理、中学生への指導に関するノウハウの有無、学校・教育委員会との連絡調整などの事務負担や統一的な対応を行う必要があることなどを検討した結果、直接ではなく、これらの地域団体を統括して運営する団体による間接的な地域連携が望ましいとの判断に至った。
- 結果として、楽団の負担を増やすこともなく、地域指導者は指導に専念でき、効果的な地域クラブ運営を行うことができた。
- ・地域指導者側からは「子供たちが音楽を楽しむ活動の機会を増やしたい」という思いが根底にあり、自分が所属する団体からの募集や活動の発信だけでは物足りなさを感じており、今回の実証事業に参加することでその機会が拡充したことは有意義であった。

IV. 課題と今後の方針

- ・今回は一定程度の部員がいる吹奏楽部を実証事業の対象としたが、本市では、10人未満の吹奏楽部が4部（R5）あり、これらの小規模部活の場合は、十分な活動・練習量を確保するために、運動部と同様に他校と合同での実施を行う必要があると考えるが、吹奏楽部はその性格上、休日は、演奏会やコンテストなどに向けた合奏を中心とした活動を行うことが多いため、合同活動が難しいことが想定される。そのため、合同練習の実施が困難であり、実施にあたっては工夫が必要。また、楽器の運搬も含めて実施方法を検討する必要がある。
- ・吹奏楽部は地域から、イベントでの演奏依頼が多い。地域とのつながりから「学校」として出ることが多いが、今後は「地域クラブ」として出演することについて、地域の理解を得るよう努めるとともに、実証事業中に検証を図っていく必要がある。
- ・吹奏楽部は42あり、地域指導者の掘起こしが喫緊の課題となっている。地域の楽団だけではなく、市内大学との連携により、学生指導者の掘起こしを図っていく。
- ・本市では吹奏楽部以外に、演劇・合唱が休日活動を行っている。特に地域移行が難しいと想定される演劇部で実証事業を実施し、指導者確保、指導方法などにつて、課題を明らかにする。



No.41

神奈川県横浜市

Ⅰ. 基本情報

運営主体： サクシード株式会社
事業目標： ①生徒に対する効果的な指導の実施
②顧問教員（以下、顧問）の負担軽減を図る
③地域経済の活性化や地域文化の振興
④持続可能な指導・運営体制の構築

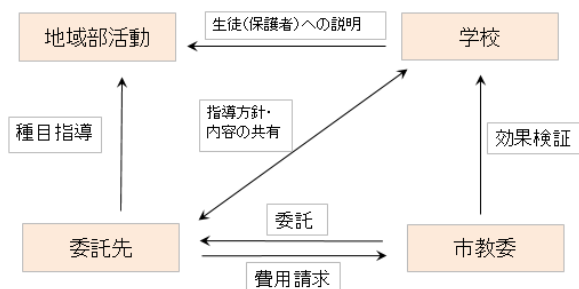
活動種別

演劇部、合唱部
※ 2校2部活動での実施

運営形態

地域移行：団体等運営型

団体・組織等の連携



Ⅱ. 活動概要・取組

【主なスケジュール】

- ・6月 公募型指名競争入札により受託業者を決定
 - ・7月 学校、受託業者、市教委との3者打合せ
 - ・8月～実践研究開始（できるところから）
 - ・2月 アンケート調査の実施（対象：学校長、顧問、生徒、保護者）
- ※ 費用負担については、令和5年度は実証研究として実施しており、受益者負担を求めている。

【主な活動内容】

合唱部：合唱に使う筋肉のストレッチや姿勢、バランスの取り方、発声練習、合唱練習等
演劇部：土台になる基礎のメニュー、演技指導等

Ⅲ. 成果

- ・生徒の部活動への意欲、技術が向上した。
- ・部活動指導に対する顧問の身体的・精神的負担が軽減した。
- ・顧問の休養日を確保することができた。
- ・平日と休日の活動の連続性を確保することができた。（効果的な練習メニューの提供）等

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・生徒へ向けて充実した指導ができるよう、顧問と指導者が連携し、活動に連続性を持たせた。
- ・技術面の指導だけでなく、学校の実情や生徒の実態を踏まえ、顧問と指導者がお互いに支援し合えるようにした。
- ・上記の連携を学校、関係団体、教育委員会事務局で共有をした。

○運営上の工夫

- ・休日の事故や、指導上での連絡体制を確保した。
- ・施設利用に関して、休日に学校を利用して活動している他の部活との日程調整を行った。
- ・企業とタイアップして人材を確保した。
- ・調和のとれた生活の中で部活動を楽しむために、学校に横浜市立学校部活動ガイドラインの遵守をお願いした。

Ⅳ. 課題と今後の方針

◆活動場所

- ・職員室を開けないと空調を付けられず、セキュリティ操作が必要の為キーボックスの設置で解消できない。
- そのため、他の部活動（吹奏楽部）が始まる時間に合わせて実施を行う必要があった。

◆連絡調整等

- ・生徒へ充実した指導ができるよう、顧問と指導者が連携し、活動に連続性を持たせたり、お互いに支援し合えるようにする一方で、連携を取るための時間が必要になった。指導員による日程や出席管理を独立して運用できるようにする等工夫をする必要がある。

活動場所

原則、実施校内

鍵、校舎管理の工夫・現状

他部活動（吹奏楽部）が始まる時間に合わせて実施 等

参加生徒の基本情報

人数：演劇部31名、合唱部17名 ※3年生含む
活動日：原則土曜又は日曜
活動時間：1回3時間

指導者の基本情報

各部に1名（部活動や街クラブでの指導経験あり）

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費（当初）
：約235万円

参加費年額/人
：徴収なし



No.42

神奈川県川崎市

I. 基本情報

運営主体： 川崎市教育委員会、リーフラス株式会社

事業目標： 休日の部活動が行われることが多い吹奏楽部、演劇部において、生徒の活動の機会を確保しながら、教員の働き方改革を進めることによる、将来的に持続可能な部活動の在り方を検討していく。

活動種別

吹奏楽、演劇

運営形態

地域移行・市区町村運営型
地域移行・団体等運営型

活動場所

中学校校舎内（教室、音楽室、多目的スペース）

鍵、校舎管理の工夫・現状

複数顧問のうちの一人が管理

参加生徒の基本情報

人数： 吹奏楽：中学校5校計210名
演劇：中学校1校、17名
活動日：土日のどちらか1日
活動時間：3時間程度

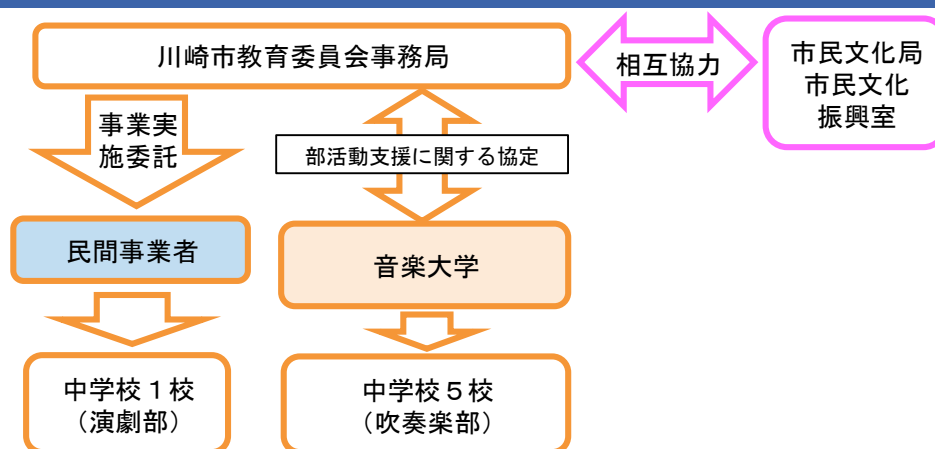
指導者の基本情報

吹奏楽：音楽大学の学生及び卒業生
演劇：演劇及び学生指導の経験者

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 74万円

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

- ・吹奏楽部については、中学校5校をモデル校とし、市内にある2つの音楽大学（昭和音楽大学、洗足学園音楽大学）の協力により、大学生や卒業生の指導者を派遣し、休日の部活動指導を実施した。
- ・演劇部については、中学校1校をモデル校とし、委託先の民間事業者（リーフラス株式会社）から派遣された指導者による休日の部活動指導を実施した。



吹奏楽部
指導の様子



演劇部
指導の様子

III. 成果

【吹奏楽部】

- ・川崎市教育委員会と市内の2つの音楽大学との間で、部活動支援に関する協定を締結
- ・音楽大学から派遣された指導者による休日の吹奏楽部指導を実施
- ・顧問へのヒアリングから、指導者の楽器指導による生徒の技術の向上や、パート練習を任せられる、顧問の土日に休める日が増えたとの意見が見られた。

【演劇部】

- ・委託先の民間事業者による、演劇及び学生指導の経験がある人材を指導者として派遣し、休日の部活動指導を実施
- ・顧問のヒアリング及び顧問・生徒・保護者へのアンケートを行った。
 - （顧問）部活動中、指導は指導者に任せて、別の仕事をする事ができた。
 - （保護者）子どもが意欲的に取り組んでいた。地域の指導の方に来ていただいて、メリハリのある活動ができた。
 - （生徒）専門指導が受けられるようになった点が満足。上達を実感できた。

どちらの部活動も好意的な意見が多い一方で、外部の指導者が部活動指導をする状況に慣れないといった意見も見られた。

IV. 課題と今後の方針

【課題】

- ・吹奏楽部、演劇部のように、校舎内で活動している部活動については、校舎や鍵の管理に課題がある。外部の場所では、楽器等運搬の負担がある。
- ・活動場所の課題もあり、顧問が1人は参加しなければならない状況のため、教員の働き方に対する効果が小さくなる。
- ・会費の徴収について今後検討するため、現在の部費の状況等を把握する必要がある。

【今後の方針】

- ・活動場所の課題について、学校等との意見交換を続け、解決策を検討する。
- ・「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」において地域移行を含めた部活動のあり方について意見を聴取する。
- ・一定の期間に指導者を派遣した上で、生徒、保護者、顧問に対してアンケートを実施するとともに、教員の働き方を含めた効果について検証する。



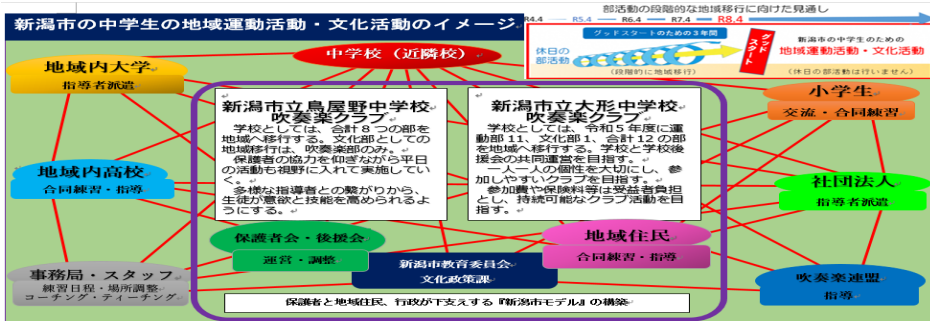
I. 基本情報

運営主体：大形中学校文化部保護者会/鳥屋野中学校保護者会

事業目標：

- ①地域人材や専門家を活かした運営主体の組織と、管理運営の在り方を明確にする。
- ②地域運動活動・文化活動を通して、生徒の「興味のある活動をやりたい」「いろいろ挑戦したい」「大勢の人と関わりたい」という主体性・人間性を育む。
- ③顧問教師の時間外勤務時間を短縮し、心理的負担を軽減する。

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

- ・保護者会による、当番制の見守りを実施。
- ・外部指導者として地域在住の楽器経験者や演奏指導経験者、兼職兼業職員を招き、指導の実施。
- ・活動場所として中学校内（例：音楽室、会議室、図書室、多目的室、第一理科室、第2理科室、ランチルーム）を使用。
- ・外部指導者が不在の際には、保護者による見守りのみで活動。練習内容等は生徒が計画・実施。
- ・外部指導者と顧問とが電話で連絡を取り合ったり、外部指導者に部活動にも参加してもらったりすることで、指導への共通理解を促進。
- ・大会前のホール練習で、外部指導者の指導を実施。

III. 成果

- ・確実に教員の部活動勤務時間は減っている。
- ・指導者が来校できない日であっても、生徒が自ら練習内容を考えたり、経験者の生徒が初心者の生徒に基本を教えるなど、生徒の自主性が高まった。
- ・指導者の高い指導力により、生徒の技能が向上した。
- ・地域運動活動・文化活動関係課と定期的に検討の場をもつことで、市の方針を定め、各区や文化活動関係連盟・協会へと伝えることができた。その結果、次年度から中学生を受け入れることに対して、前向きに検討する団体が出てきている。

- ・今年度の取組を受け、地域にある団体から広く中学生を受け入れてもらう体制を構築する必要があることについて行政内で共通理解。
- これを受け、受益者負担を軽減するため、本市独自に指導者に対する謝礼金を一部補助する支援事業を令和6年度より実施（右図参照）。

[illegible]

活動種別

吹奏楽

運宮形態

地域移行・その他

活動場所

中学校

鍵、校舎管理の工夫・現状

保護者会用のキーボックスを設置。
施錠・開錠を保護者会が行う。

参加生徒の基本情報

人 数：新潟市立大形中学校38
名/鳥屋野中学校 40名
活動日：
大形中：毎週土・日のうち、どちらか
1日半日、
鳥屋野中：週4日程度、平日
17:15~18:45 日曜日9:00~12:00

指導者の基本情報

地域人材
兼職兼業教員

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費
大形中約16万円
鳥屋野中約35万円
保険料800円/人
楽器運搬費、移動費 都度実費

IV. 課題と今後の方針

【課題】

- ・見守りを行う保護者の負担が大きく、人数が少なくなった場合には継続が不可能であると思われる。保護者会での運営には限界がある。
- ・生徒間でトラブルがあったときには、見守りの保護者による介入や解決は難しく、翌日以降の学校の対応が必要である。
- ・継続的な指導者確保が難しい。行政のサポートが必須である。

【今後の方針】

- ・教育委員会学校支援課内に「推進室」を設置し、地域と学校とが連携して地域活動へと移行できるように支援していく。
- ・中学生の受け入れを希望する実施主体（運営団体）に対して、市の作成リストへの登録を行うとともに、指導者育成研修（オンデマンド）を実施。
- ・中学生を対象に、地域で活動する団体へ参加する「体験会」を実施。



No.44

大阪府大阪市

I. 基本情報

- 運営主体：リーフラス株式会社 
- 事業目標：・少子化の中で、将来にわたり子どもたちが地域において持続可能で、多様なスポーツ・文化芸術に親しむことができる機会の確保。
・休日の指導を望まない教員が従事しなくてもよい体制の構築。

活動種別

吹奏楽・茶道

運営形態

- ・地域移行・団体等運営型
- ・地域連携・複数校

活動場所

矢田南中学校・堀江中学校

鍵、校舎管理の工夫・現状

- ・兼職兼業の教員による鍵の管理
- ・学校と連携し民間事業者による鍵の管理

参加生徒の基本情報

- 吹奏楽
11月11日：中学生6人小学生3人
1月18日：中学生7人小学生3人
1月20日：中学生7人小学生3人
活動時間：2時間
- 茶道
3日間とも参加者0人
10月21日 11月3日 11月18日

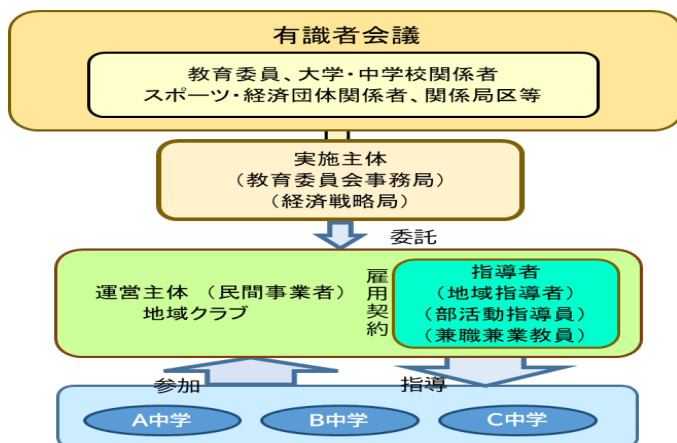
指導者の基本情報

- ・主任指導者 2,000円/時間
(民間事業者社員)
- ・副主任指導者 1,500円/時間
 - 地域指導者
 - 部活動指導員
 - 兼職兼業教員

活動財源・自己調達財源

- 文化庁事業委託費 50.1万円
- 本市自主財源 7.2万円
- 参加費年額 0円/人

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

地域移行モデル事業の運営を民間事業者へ委託し、吹奏楽（東住吉区）、茶道（西区）の2種目を各3回、1回につき約2時間程度で実施した。参加希望者は、リーフレットの二次元コードからwebで申込むこととし、参加種目数の制限はなく、アラカルト方式で参加したい種目を随時選択できることとした。

また、複数校の生徒との合同での活動とし、東住吉区の拠点では学区の小学校6年生も参加可能とし世代間で交流できる内容とした。

活動の工夫としては、民間事業者の指導日のほかに各種目におけるプロ講師による指導日を設定し、内容の魅力向上を図ったほか、拠点ごとに「部活動をしない日」を設定し、本事業へ参加しやすいように配慮を行った。

III. 成果

吹奏楽は、専門の指導者からの指導を受け、参加生徒の満足度が高く、80%以上の生徒が「非常に満足した」「満足した」と回答する結果となった。また、学区の小学生も参加することができ、面的・広域的な活動となった。

茶道は、残念ながら休日に実施した3回とも参加者がいなかったが、茶道部の生徒が同日に開催された運動部の種目に参加したという状況であり、生徒の多様なニーズを掘り起こす結果となった。

また、指導者については民間事業者が行うことにより、指導の従事を望まない教員が指導をしなくてもよい体制をとることができた。

IV. 課題と今後の方針

【課題】

持続可能な取組とするため、部活動の指導者とのコミュニケーションをはじめとする地域移行に対する理解の促進や生徒・保護者に対する事業の周知、指導人材の質・量の確保や受け皿組織の確保、継続的な活動にかかる環境の整備、受益者負担を含めた財源確保に向けた一層の検討が必要である。

また、文化行政の所管局や区役所における文化芸術振興の事業とのタイアップや、習い事や塾代に関するバウチャー制度の本取組みへの活用の可能性の検討など、様々な方面からの検討を進めていく必要がある。

【今後の方針】

本取組みを実施した4区の拠点において、来年度は実施回数を拡充し1年間通した活動を行い、令和8年度以降の在り方について検証を重ねる。



No.45

岡山県岡山市

I. 基本情報

運営主体：岡山市が学校、各種関係団体等と調整し実施

事業目標：指導者派遣について、大学生による指導及び大学、文化芸術関係団体等との連携の可能性を検証する。

指導者への研修の在り方についての検証を行う。

活動時間等の把握方法や謝金システムについての検証を行う。

活動種別

吹奏楽、ダンス

運営形態

地域移行・市区町村運営型

活動場所

岡山市立京山中学校
岡山市立岡北中学校
岡山市立瀬戸中学校

鍵、校舎管理の工夫・現状

学校の教職員

参加生徒の基本情報

[人数]

・京山中学校 吹奏楽 54人
ダンス 27人

・岡北中学校 吹奏楽 28人

・瀬戸中学校 吹奏楽 39人

[活動日・活動時間]

・平日(月火木金) 2時間

・休日(土) 3時間

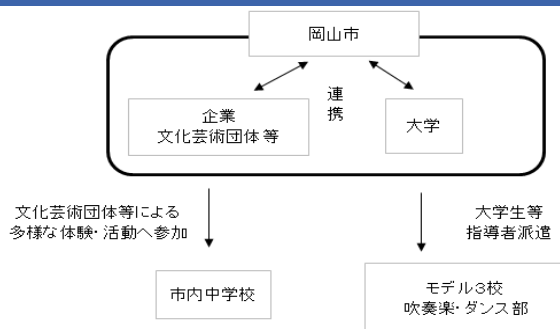
指導者の基本情報

・岡山大学、環太平洋大学の学生
・謝金1,200円/時間(交通費含む)

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 328,478円

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

- ・市民生活局に部活動地域移行担当を3名配置した。
- ・教育委員会と連携して、受け皿団体との連絡調整、指導者確保、研修の在り方、謝金支払いシステム等運営体制の検証を行った。
- ・岡山大学、環太平洋大学と連携し、学生を指導者として学校に派遣した。
また、指導者へ資質向上のための研修を実施した。
- ・文化芸術団体へヒアリングを行い、運営団体・実施団体の検討を行った。

III. 成果

- ・大学生の指導者が関わることで、指導する顧問の人数を減らし、教員の負担軽減に寄与した。
- ・モデル事業を実施している中学生のアンケート調査では、「大学生指導者の指導を通して、あなた自身の知識や技術、あるいはチーム力の向上を感じるか。」という質問項目に対し、86%が肯定的回答をしており、前向きな意見が多かった。
- ・学生指導者へのアンケート調査では、「中学生の指導に、やりがいや楽しさなどを感じるか。」という質問項目に対し、96%が肯定的な回答、「中学生の指導は、自身の将来に役立つと感じるか。」という質問項目に対しては、100%が肯定的回答をしており、学生指導者にとって、有意義な活動となっていることが伺える。
- ・部活動顧問からは、「技術的な指導をしてもらって大変助かった。」という意見があった。

【実証結果】

①大学生の活用と大学との連携の可能性について

学生指導者については、今後の地域人材の一員として十分考えられる。

②研修等の在り方

中間指導、オンラインでの実施等、回数や方法、内容の充実を図り、指導力の向上に努める必要がある。

③中学校と学生指導者との連絡調整の仕方

LINE WORKSを活用し、学生指導者へのアンケート調査では、「LINE WORKSは有効な手段か。」という質問項目に対し、85%が肯定的な回答をしている。

④活動時間や内容把握の方法及び謝金等の支払いシステム等について

紙での実績報告を行っていたが、本事業を通して、学生がスマホから実績報告をフォームに入力し、市で集計する方法を確立した。

IV. 課題と今後の方針

【課題】

- ・学生指導者への不安があるため、育成方法や研修回数を検討する必要がある。
- ・事務作業軽減のため、ICTを活用した実績報告等、より有効な手段の検証が必要である。
- ・LINE WORKSは連絡調整に有効な手段であるが、学生の中には活用できていない人がいる。
- ・地域団体等から聞き取りは行っているが、人材確保にはまだ時間がかかる。

【今後の方針】

- ・関係団体等との連携のうえ、モデル事業実施校へ休日部活動の指導者を配置し、指導を実践することで、課題の抽出、事業検証を行う。





No.46

福岡県北九州市

Ⅰ. 基本情報

- 運営主体： 九州国際大学（地域吹奏楽クラブ）、株式会社コルト（地域マンガクラブ）
- 事業目標： ・文化活動の開設数の少ない地域を中心とした文化芸術活動を行う機会の創出
・本市の特色、文化を活かした民間企業等と連携したクラブの創出
・地域人材の育成及び指導の質の向上

団体・組織等の連携

業務委託

北九州市教育委員会

・株式会社 COLT
・九州国際大学

【委託内容】

- (1) 講座内容の企画・立案に関わること
(2) 講座の実施に関わること

Ⅱ. 活動概要・取組

吹奏楽については、地域の大学と連携した地域吹奏楽クラブを立ち上げ、市内中学生の文化芸術活動への参加機会の拡充を図った。美術については地域マンガクラブを立ち上げ、著名な漫画家を輩出している本市の特色を活かし、漫画ミュージアムやポップカルチャー企業等と連携し、マンガやイラストを描く活動をモデル実施した。

Ⅲ. 成果

- ・文化芸術活動を行う機会として、本市の特色、文化を活かした大学・民間企業と連携した新たな地域クラブを新設することができた。
- ・大学吹奏楽部顧問、プロの漫画家による専門性の高い指導を受けることができ、生徒にとって充実した活動となったとの声が多かった。指導者も積極的取り組んでおり、満足度の高い活動ができた。
- ・生徒や保護者から、学校に設置のない種目のクラブに参加でき、「たのしい」や「うれしい」といった声があった。（吹奏楽・マンガ）
- ・「一つの楽器だけではなく、さまざまな楽器を演奏してみたい」など意欲的な声も多くあり、やりがいを感じている生徒もいた。（吹奏楽）
- ・「漫画家」「イラストレーター」という職業があることを知り、将来のキャリア形成について考える良い機会になった。（マンガ）
- ・普段、交流のない違う中学校の生徒と一つの目標に向かって共同作業を行うことにより会話やコミュニケーションが発生し生徒同士の交流の場にもなった。（吹奏楽・マンガ）
- ・「送迎が負担である」、「今後、費用が追加で発生するかもしれない」などことを心配している声もあった。（吹奏楽・マンガ）



活動種別

・吹奏楽、美術（マンガ）

運営形態

・地域移行・団体等運営型

活動場所

・九州国際大学
・北九州市漫画ミュージアム

鍵、校舎管理の工夫・現状

・営業時間内の活動のため、戸締りは行わない。

参加生徒の基本情報

【地域吹奏楽クラブ】

人 数：7名
活動日：週2回程度 木曜日と土曜日または日曜日、祝日 年間20回
活動時間：木 18～20時
土日10～13時

【地域吹奏楽クラブ】

人 数：13名
活動日：月4回程度 土または日、祝日 年間20回
活動時間：13～15時

指導者の基本情報

【地域吹奏楽クラブ】

・吹奏楽部顧問、大学生
【地域マンガクラブ】
・漫画家、アシスタント（コルト）

・活動財源・自己調達財源

・文化庁委託事業費 2,153,772円

Ⅳ. 課題と今後の方針

- ・継続的な運営に関する課題
 - ・活動を行っていくうえでの受け皿の数、指導者の質と量の確保が課題となっている。また、謝金単価や受益者負担等についても検討する必要がある。
- ・今後の方針
 - 来年度も2つの地域クラブについて、規模を拡大し、休日の活動に取り組んでいく方針である。
 - また、休日の部活動移行に向けて、コーディネーターの設置、人材バンクの開設、学校施設の利用など様々な可能性を模索していく。
 - 今後は、「部活動地域移行推進計画に策定」や「北九州市立部活動の在り方に関する総合的なガイドラインの改定」を予定している。

地域文化クラブ推進事業の事例



No.1

公益財団法人 音楽文化創造

I. 基本情報

部活動の地域移行の動きは既に始まっているが、吹奏楽に関しては特に課題が多く、取り組まれている地域は少ない。また、そこに関わる指導者についても不足が懸念されているところである。そこで、公立文化施設、高等教育機関、NPO、市民団体、楽器店等の地元企業といった地域の組織・団体と、学校・教育行政とが連携して取り組むコンソーシアムを立ち上げ、吹奏楽の地域文化クラブのモデル事業を複数実施することで、地域や学校の実情、ニーズ等を反映したクラブ運営や支援の在り方について実証事業を行う。また、地域文化クラブに関わる指導者に対する事前研修コンテンツも開発、実施することで部活動の地域移行に関わる地域人材育成の在り方についても検証を行う。

取組内容

受け皿（コンソーシアム）構築支援と実態調査

部活動指導者育成カリキュラムの開発

II. 取組内容と成果

受け皿構築支援と実態調査に関する取組

【取組内容】

以下7団体を中心にコンソーシアムを構築し、地域の特徴に応じた実証事業を試みた。

・株式会社宮地商会（東京都小金井市）
→ 国立音大の協力のもと東京多摩ジュニア吹奏楽クラブを設立し活動

・株式会社 中川楽器（岡山県倉敷市）
→ 私立倉敷高等学校の協力のもと複数の中学校吹奏楽部が合同練習を実施

・株式会社富岡本店（山形県山形市）
→ 成人主体の「1日ブラバンDay」の活動に中学生が参加

・株式会社ヤマハミュージックジャパン（沖縄県渡嘉敷村）
→ 指導者がおらず吹奏楽部が無い離島の中学校でオンラインによる音楽指導を実施

・（公財）横浜市芸術文化振興財団磯子区民文化センター杉田劇場（神奈川県横浜市）
→ 地元中学校吹奏楽部、合唱部に指導員を派遣、地元音楽祭で合同演奏を目指す

・NPO法人ふじみ野市音楽家協会（埼玉県ふじみ野市）
→ 地元音楽指導者、参加希望の教諭等による複数校合同のパート指導

・NPO法人掛川文化クラブ（静岡県掛川市）
→ 当法人の主催する文化クラブを中学校部活動の受け皿組織とすべく体制作り、指導者育成を推進

【成果】

・実証事業参加7団体による各地域ごとの実証事業へのアドバイス及び事態調査を行い報告書を作成した。
・各団体の取り組み状況の概要については再委託団体の活動報告書に記載している。

部活動指導者育成カリキュラムの開発に関する取組

【取組内容】

【部活動指導者育成カリキュラムの開発】

指導者の質と量を確保するための認定カリキュラムを開発し、育成講座を実施するため開発会議をスタートさせた。メンバーは、大学教授、国立教育研究所研究官、社会教育関係誌編集長、音楽文化団体理事長他。会議を重ねカリキュラムを開発し、トライアル講座を実施。吹奏楽関係団体とのヒアリングを行いブラッシュアップを図った。次年度より本格展開を開始予定。

<カリキュラム概要>

学校の教諭に代わる部活動指導者としての資質や倫理観、知識やスキル等を学ぶカリキュラムを開発。また、自分で考え、地域文化を興していけるような人材の養成も目的としている。楽器の演奏など専門的なことなく、指導者として人の前に立つうえで最低限必要なことをまとめた、ミニマム・スタンダードな内容にしている。

①地域文化・制度 『文化政策と学校部活動の地域移行』

- ・国の文化政策の方向性
- ・学校文化部活動の地域移行
- ・教師の働き方改革との関係

②組織運営 『音楽団体マネジメントとネットワーク』

- ・マネジメント論（組織を維持する力）
- ・目標設定、事業計画、地域（学校部活を含む）との連携
- ・プロジェクト運営「ネットワーク」（行政、学校、関係者とのコミュニケーション）

③リスクマネジメント 『指導者の倫理と管理』

- ・ハラスメントの防止
- ・安全管理、健康管理
- ・引率の安全管理：事例、保険

④発達・教育 『音楽活動におけるコーチング理論』

- ・コーチングとティーチング
- ・現代の教育の最新動向
- ・吹奏楽部特有の課題
- ・技術習得や合奏に必要な指導項目

【成果】

・今年度は、部活動指導員の量、質の確保のための育成カリキュラムの開発を行った。
・次年度から当該カリキュラムにより育成講座を実施し部活動指導員の認定を行い質、量の確保を目指す。
・認定者の活用促進のため自治体、文化団体他とのマッチング方法等の研究を行う

Ⅲ. 地域移行に向けた課題・今後の方針

【受け皿（コンソーシアム）構築支援と実態調査】

・今回の実証事業における運営形態は、地方公共団体やそれに類する団体（横浜杉田劇場、ふじみ野市音楽家協会など）によるケースと、楽器店（中川楽器、宮地楽器など）によるケースの2種類があった。前者の場合には、参加者の金銭的負担は多くはなかったが、楽器店が運営する場合には、事業として今後も継続することを想定していたこともあり、受益者負担となっている。今回の場合、受益者負担であっても、内容的に十分なものが提供されているので、保護者等からも不満が出ていない。

受益者負担そのものは問題ではないが、学校での部活動でほとんど無償で音楽学習ができていた児童・生徒にとって、受益者負担が生じると、家庭の経済力が子どもたちの機会均等の平等性を損ねてしまう心配がある。経済的な理由で音楽学習ができないというのであれば、以前のように、学校の部活動を継続して、指導する教員に残業手当などの措置を講じたほうが、子どもたちのためにはなるであろう。

・前者の実施団体の場合には、会場の確保や指導者の確保はそれほど問題にはならないが、楽器の配置や保管などの物理的な問題がある。また楽器店の場合にはこうした楽器の問題はなくはないが、練習会場の確保がかなり難しい。場所の確保のために、金銭的な負担が増え、最終的に、子どもやその保護者への負担となってしまう。

・中川楽器店のように、すでに地域の学校、特に部活動の指導教員との連携ができている場合には、より効果的な事業展開ができるが、そのような連携の下地がない地域では、地域の団体や楽器店が、部活動と同様の活動を展開し、そこに子どもたちを参加させることはかなり難しいだろう。端的に言えば、地域の学校等との連携や理解が無い状況においては、「学校の部活動を学校や指導している教員から、引きはがすようなことは、できない」ということである。

・吹奏楽の地域文化クラブ推進においては、活動内容、それに伴う収支計画の策定に始まり、楽器の手配(保管)、練習場所の確保、活動スケジュール調整、指導者の派遣、会費の徴収管理（予実績管理）等々、運営面のハードルは高く、個人にそれを負わせることは相当困難であり、ボランティアでは事業としての継続は見込めない。今後、運営に長けた地域の楽器店等の事業者が参入する可能性は本事業の取り組みからも十分に想定されるが、自治体、教育委員会からの助成、支援が得られないため、学校(校長、部活動顧問教諭)との連携が進まず、成果に至らない事例が今回多く見られた。地域文化クラブへ一般事業者が参入しやすい環境整備が喫緊の課題であり、教育行政における可及的速やかな取り組みを大いに期待したい。

・本格的に事業を運営していくにあたっては、本格的な事業運営に等しい期間での、実証事業を行う必要があるだろう。4～6カ月の実証事業の成果だけでもって、本格的な実施、つまり通年の実施を計画・立案するのは、かなり難しい。

こうした状況にありながら、継続的な実施を各団体や事業者を求めるのは、慎重であるべきであろう。そのためには、国ならびに地方公共団体による予算措置を確実なものにしておかないと、各団体や事業者はすぐに撤退してしまうであろう。

よって、今後、実証事業としては1～2年の期間で、通年実施の形態に近い形での実証事業が必要であろう。またその後の2～3年は、文部科学省あるいは文化庁の助成によるモデル事業の普及が必要であると思われる。とりわけ、来年度も実証事業を継続する場合には、文化庁と文部科学省から都道府県の教育委員会に対して、事業内容の通知と協力への依頼を、文書でもって周知徹底することが必要である。

最後に、ここではいくつかの問題を指摘したが、こうした問題をまず文部科学省や文化庁はよく把握しておいてもらいたいと思う。特に、音楽の場合、質の高い指導を行うには、それなりの予算が必要なのである。これまでは学校の部活動の指導教員の「善意と熱意」によって支えられてきたわけである。誰が指導するにしても、それに対して正当な対価を行政側が負担する覚悟があれば、どのような形であっても、上記の問題は解決されていくのではないだろうか。受益者に負担を求めると、教育格差を助長しかねないので、十分な配慮が必要とされるであろう。学校から部活動を引きはがし、その結果、教育格差を助長するというような、最悪の事態はぜひとも避けるべきであろう。

【部活動指導者育成カリキュラムの開発】

- ・今年度は、部活動指導員の量、質の確保のための育成カリキュラムの開発を行った。
- ・次年度から当該カリキュラムにより育成講座を実施し部活動指導員の認定を行い、質、量の確保を目指す。
- ・認定者の活用促進のため自治体、文化団体他とのマッチング方法等の研究を行う。
- ・各地で指導者兼受け皿（コンソーシアム）作りのコーディネーターとして活動する認定者のネットワーク化を図り課題解決へのサポートを行う。



No.1-1

東京都多摩地域（東京多摩ジュニア吹奏楽クラブ）

Ⅰ. 基本情報

事業目標： 近い将来の少子化および教員の負担軽減を図る「働き方改革」の進展により従来の学校部活動が成り立たなくなることを見据えて、早期に地域での受け皿となる活動主体を模索し持続可能な都市型モデルのクラブ運営を目指す
多様なニーズにあった子供たちが文化芸術に継続して親しむことのできる機会の提供を目指す

運営主体： 株式会社 宮地商会（宮地楽器）

活動場所： 東京都多摩地域

団体・組織等の連携

運営：宮地楽器
事務局として活動運営、保護者・コーチへの連絡・行政への働きかけ
指導：国立音楽大学系列指導陣による

Ⅱ. 活動概要・取組

ア：指導者の量の確保
クラブ在籍パート分の指導コーチの確保

イ：指導者の質の確保
総監督教授による 音楽大学での日々スキルアップ

ウ：活動場所の確保
国立音楽大学施設である「AIスタジオ」（国上市・運営管理を宮地楽器が受託管理）を利用

エ：楽器等用具の確保等
クラブ発足に必要な楽器はヤマハミュージックジャパンより楽器レンタル、また個人レンタルも併用できるよう手配

オ：教員と地域指導者との連携
学校部活動の生徒および吹奏楽クラブの生徒も同じ地域に生活する子供たちであるため、交流できる地域行事や祭事への参加、また学校部活動・吹奏楽クラブの隔てなく、いずれの子供たちも参加できるレベル向上のためのクリニック開催や大学主催のワークショップへの参加を提案企画していくことで学校関係、地域の理解認知を広めていく

Ⅲ. 成果

地域への普及啓もう活動、持続可能な活動のための受益者負担認知活動、子供たちの第三の活動場所（学校、家以外）の提供

市区をまたいで地域横断型の活動のため多様なニーズに合った活動機会の選択の場の創出

地域の楽器店と専門大学だからこそできる室・レベルの高い指導体制による活動

活動種別

吹奏楽

運営形態

株式会社（楽器店）

活動場所

国立音楽大学AIスタジオを主とする

活動場所での実施上の工夫

複数スタジオの利用により相互の練習に影響が出ないように工夫

参加生徒の基本情報

人数：19名
活動日：月3～4回程度土曜日
活動時間：3～4時間程度

指導者の基本情報

指導コーチ：国立音楽大学卒業生や院生・学生を主とする
全体統括指導：国立音楽大学教授

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 282.5万円
活動費 月額8800円/1人
*R6年度以降は活動費変更の可能性を含む

Ⅳ. 課題と今後の方針

・活動メンバーの増員により活動費負担の軽減
・市区をまたいだ活動場所、楽器の確保
・持続的に誰でも参加できる取り組み（公的支援や公共施設の利用等）、地域での活動周知



No.1-2

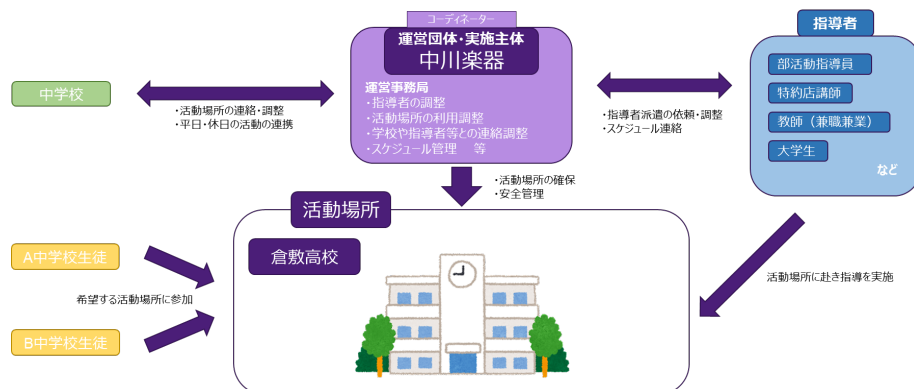
岡山県倉敷市（MIRAI Wind Club）

I. 基本情報

運営主体： 株式会社中川楽器

事業目標： 私立の倉敷高等学校を会場として借用し、月に1～2回(土)または(日)に合同練習会（ミュージックジム）を行うことで、中学生の活動の場を広げ、そこで専門的なレッスンを受けることで演奏技術を向上し、より吹奏楽への関心を高める。また、主な指導者に教員OBの部活動指導員を起用することで、若手指導者の育成にもつなげる。

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

【活動1】 ミュージックジム(合同練習会)

- ・地域に縁のある教員OBの部活動指導員、中川楽器音楽教室の講師など延べ10名以上を合奏指導やパート講師に迎え、専門的な指導のもと合奏やパート練習など合同練習を行った。
- ・10月から1月までの期間に7回実施。
- ・倉敷高校を借用し、倉敷市内8校の吹奏楽部より、平均して約120名／回が参加。
- ・会場設営や当日の中学生のアテンドは倉敷高校吹奏楽部生徒が担った。

【活動2】 発表会

- ・今シーズンの集大成として、岡山シンフォニーホールにて発表会を実施。
- ・これまでのミュージックジムに参加した全員が出演し、合同演奏を4曲披露。
- ・ゲストバンドとして全国的に活動する就実高等学校・中学校を迎えた。

III. 成果

- ・地域に縁があり、指導経験が豊富な外部指導員が実際に合奏やパート指導を行うことで、生徒たちの演奏技術を高め、合奏する楽しみや喜びがより増えた。また、他校の生徒と合同で活動することによりお互い刺激を受け、それにより生徒たちの吹奏楽への関心も高まり、自主性や協調性などの面でも大きな成長に繋がった。
- ・保護者にもミュージックジムや発表会など、生徒たちの活動を実際に見ていただく機会が増え、吹奏楽活動への理解が深まった。
- ・吹奏楽部の顧問や若手指導者は、外部指導員による指導を見学することにより、自身の指導スキルを高めることができた。
- ・外部指導者は、これまでの経験を大いに活かしつつ、指導者自身も楽しみながら吹奏楽指導ができている。

IV. 課題と今後の方針

私立高校を活用し、スタッフ的人員も高校生部員を活用、指導者は地域の教員OB、楽器店講師に依頼という大枠が形成できた。現在は中学生が学校単位で参加しているところを、今後は各校顧問の負担がなくなるようイベント保険など個人としての参加ができるよう整備すること、楽器運搬の負担軽減のために地域バンドとしての楽器備品を持つことなどで更に独立した地域バンドとして確立していきたい。また、倉敷市の中でも倉敷高校まで遠方な学校もあるため、どのエリアからも参加しやすい活動場所を提供できるよう、他の私立高校や市の公共施設など、活動拠点を増やしていくことも検討している。

活動種別

吹奏楽

運営形態

地元企業（楽器店）

活動場所

倉敷高等学校

活動場所での実施上の工夫

参加生徒の基本情報

人数： 市内8中学校210名
活動日： 月2回、(土)or(日)
活動時間：3時間

指導者の基本情報

教員OB部活動指導員、中川楽器音楽教室講師

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 150万円
参加費1人300円/回



No.1-3

山形県山形市（ほっとなる吹奏楽部）

I. 基本情報

運営主体： 株式会社富岡本店
事業目標： 異年齢混合型の地域文化クラブとして、学校吹奏楽部の受け皿を組成していく

活動種別

吹奏楽

運営形態

地元企業（楽器店）

活動場所

小規模ホール、練習室

活動場所での実施上の工夫

参加人数に合わせた施設規模手配

参加生徒の基本情報

人 数：一般25名、中学生4名
活動日：月三回の日曜祝日（月2回指導者より指導合奏・月1回個人練習）
活動時間：半日程度

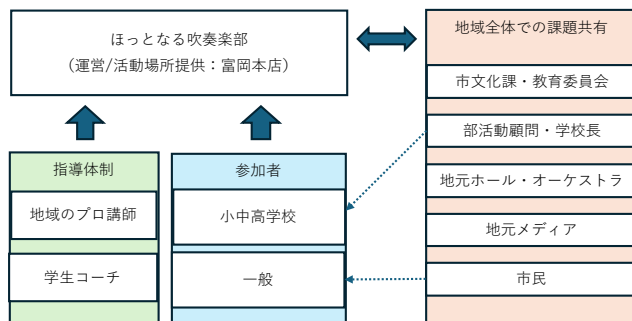
指導者の基本情報

普段から吹奏楽部巡回指導に当たるプロ奏者

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 90万円
参加費/回：一般1,500円
：学生1,000円

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

- ・株式会社富岡本店運営の休眠層や個人活動層を中心とした大人メンバーによる活動母体を活用し、学校生徒希望者を受け入れていく。
- ・月三回の日曜祝日（月2回指導者より指導合奏・月1回個人練習）に活動実施
- ・指導者は音楽教室プロ講師2名を起用。量、質共に手厚く、体系的に楽しみながら上達できる環境を整えた。
- ・本事業ノウハウを自治体組織へ渡せるよう、情報交換に努めた。関係者による会議も複数行われた。

III. 成果

- ・取組当初本事業課題に対する認知度はまだまだ低い状態であったが、地域へのPRを行った結果、現場当事者、市民から今後のサポートを得る最初のキッカケを作ることができた。
- ・来年度以降、地域施設や他団体とコラボし、課題を取り扱った取組を検討することとなった。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・活動日を既存部活と被りにくい、日曜祝日に設定をした。
- ・指導面からもプロ講師を起用し、分かりやすく楽しい指導を行うことで途中離脱することなく活動を終えることができた。

○運営上の工夫

- ・活動時間を鍛錬する時間としてではなく、コミュニティとしての時間であることを意識し、メンバー内のコミュニケーション機会創出に務めた。その結果、メンバー内で自主的に食事会が開かれるなど、参加すること自体に価値を作ることができた。



IV. 課題と今後の方針

- ◆既存部活動との交流
 - ・各学校への対面ヒアリング調査を深化
 - ・他校生徒、大人参加者との合同型練習会の検討
- ◆団体への所属を求めない形での活動開催
 - ・部員取り合いの回避
 - ・1日完結型での活動日設定
- ◆将来へ継続するコミュニティとしての構築、情報発信
 - ・SNSアカウント設立、保護者コミュニティへの発信
- ◆社会課題としての関心支援の醸成
 - ・地元新聞社からの継続取材、地域企業への支援依頼



No.1-4

沖縄県渡嘉敷村

I. 基本情報

運営主体： 株式会社ヤマハミュージックジャパン

事業目標： オンラインを活用することにより、全国どの地域でも格差のない文化体験を提供できる体制の構築を目指し、環境に左右されない生徒のニーズに沿った新しい・未来の吹奏楽部の形を構築していく。

活動種別

オンライン吹奏楽

運営形態

株式会社（楽器販売）

活動場所

自宅

活動場所での実施上の工夫

オンラインのため、自宅で実施ができた。
音量も調節できるため、近隣への配慮も可能。

参加生徒の基本情報

人数：2名
活動日：火曜日
活動時間：2時間程度

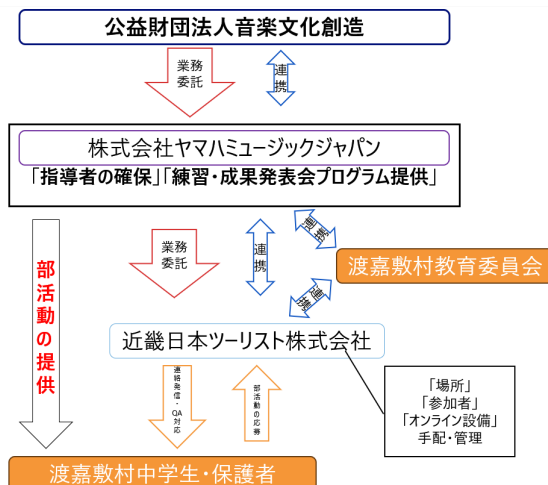
指導者の基本情報

三浦玲太
株式会社ヤマハミュージックジャパン
インストラクター

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 183万円

団体・組織等の連携



II. 活動概要・取組

学校から切り離れた民間が提供する部活動の実現性を図る事業とする。離島では文化活動における指導者不足や認知度の影響により、本島の生徒に比べ文化活動に触れる機会や部活動の機会が極端に少ない。国内の地域（特に過疎地域）では文化活動そのものが消滅の危機にある地域があるため、民間企業が入り遠隔指導を提供する。

また、オンラインを活用することにより、全国どの地域でも格差のない文化体験を提供できる体制の構築を目指し、環境に左右されない生徒のニーズに沿った新しい・未来の吹奏楽部の形を構築。

渡嘉敷村教育委員会の担当がフォローに入りながら活動を進め、指導者は地域人材ではなくオンラインを活用した遠隔指導を行う。

III. 成果

オンラインを活用することにより、離島の生徒にも質の高い指導を提供することができた。

指導者も積極的に範奏を取り入れたり、楽譜を画面共有しながらリアルタイムでアドバイスを書き込むことによって生徒たちが知識と技能の双方が習得できるようになった。

活動場所も、学校での活動ではなく自宅で活動することにより、保護者も日々の活動の頑張りを感じて頂くことができた。

少し難しい課題も環境に合わせた部活動プログラムを提供しオンラインレッスンを実施することにより、生徒の満足度も高くなった。

成果発表会を島民の方々に聴いて頂く事により、ただレッスンを実施するだけでなく、明確な目標を持って取り組んでもらう事ができた。また、地域を巻き込んだ事により、今回の実証事業を知って頂くことができ、部活動を地域で実施していくためには、学校のみならず地域の協力も不可欠になるので、教育委員会・学校・地域の連携の大切さを実感した。

IV. 課題と今後の方針

今回の実証事業では、デジタルサックスを活用したが、他の管楽器の場合は場所（音の問題）や楽器（大型楽器の運搬）の課題が新たに出てくる。

離島を含めた過疎地域の場合、吹奏楽楽器の中でも限られた楽器しか揃えられない場合があるため、演奏曲の選曲の難しさがある。

また、20～30名でオンラインによる合奏指導を行った場合に、どこまで細かい指導ができるのかが、課題になる。

今後は、パート練習をはじめ、20～30名による合奏の指導ができる環境も模索していく



No.1-5

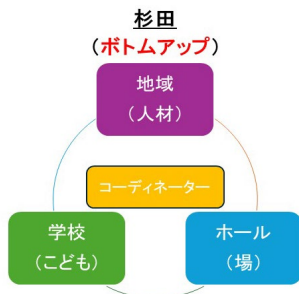
神奈川県横浜市磯子区（杉劇地域文化クラブ応援プロジェクト）

Ⅰ. 基本情報

運営主体： 横浜市磯子区民文化センター杉田劇場

事業目標： 社会の流れの中で、働き方の論議がされて久しいが、いよいよ教育現場にも、働き方改革の動きが加速してきた。令和8年度に移行する地域文化クラブという公立学校の部活動の新しい取り組みは、教員の働き方改革、部活動の負担を減らすという側面と、地域にいる専門家・文化の担い手の活用・促進をする側面をマッチングさせるものであり、移行に向けて、杉田劇場では、杉劇地域文化クラブ応援プロジェクト2023として実証事業を実施した。

団体・組織等の連携



Ⅱ. 活動概要・取組

中学校の吹奏楽部に講師をプロを派遣し指導。小学校の特設合唱クラブにプロの講師を派遣し指導。発表の機会を設ける（磯子音楽祭への出演12月23日）。

12月23日音楽祭終了時にアンケート回収。

生徒にはアンケート実施。顧問と指導員にはヒアリング。

学校教員OBの学校連携コーディネーターを依頼。

各学校にプロの音楽家を講師として派遣し指導。その成果を発表する場を設け、学校の枠を超えて合同で演奏し交流する場を設けた。

Ⅲ. 成果

参加した生徒達からは喜びの声が多く上がったが、その一方で学校と講師との認識のずれや、スケジュール調整の難しさなど、いくつかの課題も見つかった。

今回の実証実験の結果の報告書を配布したことにより市内の教育機関や行政局からの関心が高まり、今後のヒアリングの予定が決まっている。

横浜市は政令指定都市であるため人口も多く、その分動きが遅くなりがちだが、今回の事例によって特に校長先生たちからの関心が高まり次年度参加を希望する学校が増えている。

部活本来の在り方というよりも、働き方改革に関心がある校長から熱視線を向けられているが、実際に現場で顧問として働く教員たちとの温度差が目立つ。

しかし子どもたちからはとても喜ばれているので、それが一番の成果ではないかと考える。

学校は1年前にすべてのスケジュールが決まっているので、学校にとっては、今回のような時期にこの事業を実施することは、学校行事との、各顧問間での調整がうまくできず、学校という特性上コロナやインフルエンザで休校が続き、練習日程が学校によりアンバランスになった。顧問により、対応もさまざま、学校として部活動は統制が取れてはいない現状も顕著になった。横浜市磯子区民文化センター杉田劇場の事業に合わせるより、学校のその時の現状に合わせていく結果となってしまった。

学校連携のコーディネーターを学校の特性や状況を理解している学校教員OBに依頼したことにより、学校サイド、教員に寄り添った対応ができたことで、逆に浮き彫りになったことも多い。

今回、事業を実施して感じたことは、学校（管理者側）というより、教員（顧問）の資質によるものが多い。

地域文化クラブを行うことで自身の顧問という立場が脅かされると感じ、地域文化クラブに移行することでストレスを持ち攻撃的になる顧問もいれば、協力して、各校の交流や合同演奏を楽しみ、指導員を尊重する顧問もいる。

コーディネーターの役割が非常に大きく、学校教育の現場を知りつつも、学校教員にも講師の側にも寄り添うことができるコーディネーターの育成がとても重要であり、今後はこの三者にしっかりと研修とフォローアップを行う仕組みを構築していくことが重要だと考えられる。

活動種別

特設合唱クラブ、吹奏楽部

運営形態

公益財団法人

活動場所

杉田劇場、各学校音楽室

活動場所での実施上の工夫

学校にあるもので対応し、余計な支出を抑えた。

参加生徒の基本情報

人数：中学校吹奏楽部 合計61名
小学校特設合唱クラブ 31名
活動日：中学校は9月から12月まで、月当たり2回から3回、各校に講師派遣実施。
小学校は、11月と12月に1回ずつ講師派遣実施。
活動時間：活動日と回数は学校ごとの年間スケジュールとコロナやインフルエンザによる都合でその都度変わり、学校によりばらつきがある。
1回あたりの活動時間は2時間。

指導者の基本情報

横浜ユーフォニアム合奏団代表、吹奏楽指導者。防衛大学吹奏楽指導者。ソプラノ歌手。

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 120万円
磯子音楽祭事業費（杉田劇場）
保護者負担は無し

Ⅳ. 課題と今後の方針

最低1年前に学校と調整をすること。その時に校長と顧問を交えた話し合いの場を持つことが不可欠である。

今後は教育委員会や校長会との連携を密にし、現在の地域からのボトムアップだけではなく行政のトップダウン（教育委員会から校長会への流れ）も組み込んだ仕組みをつくっていく。

今後のスムーズな連携のためにまず第一歩として、学校の現場と地域の講師たちの双方に対する理解を深める研修などを行う。



No.1-6

埼玉県ふじみ野市地域文化クラブ

Ⅰ. 基本情報

運営主体： ふじみ野市音楽家協会・ふじみ野市文化協会・文京学院大学

事業目標： 中学生を対象に地域において持続可能な文化芸術活動を実施する。合唱、楽器演奏などの文化芸術体験を通して、生徒が将来にわたり文化芸術等に親しむことのできる力を獲得する。また学校とは違うサードプレイス（居場所づくり）にも貢献する。指導者は、ふじみ野市の文化芸術団体「ふじみ野市文化協会・ふじみ野市音楽家協会」に所属するアーティスト等により、楽しくスキルアップを図る場とする。

活動種別

合唱・楽器演奏

運営形態

NPO法人

団体・組織等の連携

組織図・スキーム図等

「ふじみ野市地域文化クラブ事業」推進体制		
ふじみ野市地域文化クラブ推進事業運営委員会		
名 称	地域音楽クラブ (合唱・楽器)	地域アートクラブ (アート・伝統文化)
実施主体	ふじみ野市音楽家協会	ふじみ野市文化協会
役 割	地域音楽事業の開催 (見学会の開催)	地域アート事業の開催 (地域移行の情報収集・取りまとめ)
支援・サポート	文京学院大学	
予 算	文化庁補助金受託者「財」音楽文化創造 「地域文化クラブ推進事業」 からの再委託	指定管理者の市からの受託費から 講師謝礼・消耗品費を支払う
指定管理者の役割	会場の先行予約・事業支援	開催、会場の先行予約・備品利用協力
文化スポーツ振興課の 役割	関係機関との調整	指定管理者への委託、 関係機関との調整
教育委員会（学校教育課・社会教育課・公民館）の役割	・学校との連携・調整（学校長、部活動顧問、児童生徒等への周知） ・社会教育・公民館との連携・調整 ・【共通】事業への支援	

Ⅱ. 活動概要・取組

【合唱コース】対象を中学生からだけでなく、小学校高学年から募集し中学生になった際に参加しやすい環境づくりを工夫した。その結果、中学生と小学生の交流も生まれ中学生が小学生の面倒を見るような様子も見られた。活動は、9月から月2回日曜日の午前11時から12時まで、指導者も音楽家協会若手音楽家2名、ピアノ伴奏1名の体制で行い、指導者の年齢が若いことで参加者した生徒も楽しく合唱に取組むことができ、結果、上達につながることができた。ホール事業に参加するという目標を設定したことで、やり遂げる力、達成感が生じ、その後の自信や積極性にもつながっていった。

【楽器演奏コース】参加人数は少なかったが、楽器演奏では現役のプロの演奏者にきていただくことができ、充実した指導を受けることができた。9月：フルート、10月：クラリネット、11月：トランペット、12月：サクソ、1月：パーカッション、2月：フルート公開レッスン、トロンボーン（全7回 6楽器）の体験を行った。部活が吹奏楽部の生徒だけでなく、楽器初心者の方の生徒の参加もあり、早めにPRをしていけば、今後は更に参加者も増えてくることが想定される

Ⅲ. 成果

中学生が文化芸術に触れる機会とすると習い事の他は、学校での芸術授業、部活動での場しかなかったといえる。今回の「地域文化クラブ」は、学校とは違う場で、誰もが気軽に文化芸術に触れる機会を得ることができるのは大きな意味があると言える。中学生から社会人までの期間は、ほとんど地域とのつながりが無くなるか薄くなり、地域にある充実した文化芸術資本に触れる機会が失われる。部活動の地域移行をきっかけに、地域にある様々な文化資本に生徒が直接触れ体験していくことができれば、生徒の人間形成にもよりよい影響を与えることができる。そのような意味から、今年度の「地域文化クラブ」はその第一歩を踏み出すことができた。また、実施主体が文化芸術分野だけでなく、教育委員会、文化施設指定管理者、行政、文化団体が連携し、支援・サポートしていく体制が構築できたことは、今後の事業推進の大きな前進となった。今年度の課題を整理し、学校と連携・調整し、次年度は更に充実した取り組みとしていきたい。

特に強調する点として、合唱コース参加者のホール事業への参加である。本格的オペラ「ボエーム」への出演は、参加者にとって初めてのめったにない体験である。色々な意味で、生徒に自信や積極性を持たせることができた。ホール出演までつなげた若手音楽家の指導は、生徒を粘り強く指導し、仕上げていった練習の工夫など、評価できる点である。

楽器演奏コースでは、毎回、文京学院大学生もスタッフとして参加したことも中学生だけでなく様々な年代がいることで、多様な空間を作り上げることができた。また、楽器指導者は、プロで活動している現役の若手演奏家に依頼できたことも、学校では得られないスキルや意欲の向上につながることもできた。

Ⅳ. 課題と今後の方針

【課題】

- ・中学生自身が多忙な生活を送っている中でいかに参加者をふやしていくか。
- ・忙しい中でも参加したいと思える魅力的な内容、指導者の確保を検討していく。
- ・中学生にとってメリットのある内容、スキルの向上や生活に役立つなど検討する必要がある。
- ・中学生の実態を良く知る学校・教員の意見、中学生の意見を聴き、何を求めているかを的確に把握する必要がある。

【今後の方針】

- ・生徒の希望、学校・教員の意見を把握し、実態にあった内容、開催場所を検討する。
- ・特に、楽器演奏については吹奏楽部員だけでなく、楽器が初心者の方の生徒も気軽に参加できるよう、初心者、経験者コースなど複数コースを検討する。
- ・継続練習を考え楽器の種類を絞る。
- ・学校の部活動に出向いて個別指導、全体指導に参加する中で、生徒の要望を把握し、実現可能な運営を検討する。



No.1-7

静岡県掛川市（掛川文化クラブ）

Ⅰ. 基本情報

運営主体： NPO掛川文化クラブ

事業目標：

机上では、スポーツ・文化を含め、令和8年度掛川市中学校部活動廃止までの計画ができつつあるように見える。だが、それを実際に運営するとなると、様々な課題が出てくる。現在に至るまで、掛川市では特に文化の分野（吹奏楽/合唱/弦楽）について、児童生徒を育成するような連携は民間の中では組織すら存在しない。また、吹奏楽についても学校任せの状態であった。これを、民間で運営するとなると課題になるのは、次の課題をどのように解決するかである。

- 1 人材（指導者及び協力団体）
- 2 場所（活動拠点）
- 3 物（楽器）
- 4 財源の捻出（自治体の援助・受益者負担・賛助会員等の獲得）

この4点について、市教育委員会や掛川市文化財団とも連携をして検討することを事業目標とする。

団体・組織等の連携

掛川市では、令和5年度より「かけがわ地域クラブ設立連絡協議会」を設置し、文化・スポーツ活動体制づくりや環境整備について検討・協議を進めてきている。その協議会は、野球、サッカー等11競技のスポーツ団体と文化の2NPO法人から組織され、「新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を検討してきた。文化関係は、掛川市文化財団がその管理を担い、各文化団体と市教育委員会、各学校との連携を図っていくことになる。中学校学校長、中学校教師は、基本的には部活動が地域に移行されることについて受け入れており、特別混乱は無いが、移行が近くなるにつれ保護者からの意見や要望は当然今以上に出てくるものと思われる。

Ⅱ. 活動概要・取組

掛川市では、令和8年度夏部活動廃止という事でスポーツ・文化共に準備は進みつつあるが、課題は山積みでこれらの課題をどのように解決していくかが現在の話し合いの中心になっている。掛川文化クラブとしては、吹奏楽指導者講習会や指導者連絡協議会を立ち上げて、市教育委員会との連携を図り、課題の解決に向けて話し合いを重ねている。来年度は、立ち上げる3つの吹奏楽団の運営体制や指導体制について具体的な検討を進めていく予定である。一方で、中学生の文化に触れる機会を広げるという観点から、掛川市内の中学校には合唱部や弦楽部は無いが、新たにこの機会に合唱クラブや弦楽クラブの創設を目指して講習会を開催するなど、その指導者の連携も図り、文化の裾野を広げたい。

Ⅲ. 成果

- 1 人材（指導者及び協力団体）

指導者については、地元楽団のメンバーなどに加え、静岡大学管弦楽団の学生に指導をしてもらうことができた。年齢が近い学生から指導を受けられることは子どもたちにとって有益な体験となった。また、吹奏楽・合唱については指導者連絡協議会を立ち上げ、各学校の顧問や元教員の指導者と意見交換ができた。現状を把握してもらい、今後の活動に向けて積極的な参加を求めたい。掛川市文化財団・掛川市教育委員会とも連携をはかり、今後の活動に向けて現場の意見を反映できるようにしたい。また、吹奏楽、弦楽、合唱の講習会（指導者講習を含む）を開催し、文化クラブでの指導に携わっていない指導者もふくんだ能力や資質のブラッシュアップに貢献することができた。

- 2 場所（活動拠点）

市の文化施設を使用しているが、使用料などの減免はない状態は続いている。そのような中でも休日の中学校利用（別棟のため管理がしやすい）ができた、無償で利用させていただける施設（大日本報徳社）があるのは大変ありがたいことである。

- 3 物（楽器）

個人持ちのもの、地元吹奏楽団のものや各学校から借用して使用している。

また、ある企業より楽器を無償で貸与していただける機会に恵まれ、それも使用できている。

- 4 財源の捻出（自治体の援助・受益者負担・賛助会員等の獲得）

・運営資金を調達するのは最も難しい課題であった。

賛助会員を募集するためにチラシやパンフレットを作成し、掛川市内の主な施設に置いたが今のところ、2社にとどまっている。

・自治体の援助は得られなかった。

・受益者負担（文化クラブ員の負担）については金額の設定が難しく、受益者負担だけで運営をまかなえるだけの負担を求めにくい状況が続いている。

※活動写真は次ページ

活動種別

吹奏楽・弦楽・合唱

運営形態

NPO法人

活動場所

掛川市生涯学習センター（有料）
掛川市立城東中学校
（無料・鍵管理あり）
大日本報徳社（無料・鍵管理あり）

活動場所での実施上の工夫

指導者が鍵の管理を行う

参加生徒の基本情報

吹奏楽：26名 水／土曜日各2時間
（1名）第一小・土方小・桜木小・大坂小・
西中・栄川中・常葉菊川中・桜が丘中・
小笠高・掛川西高
（2名）中央小・東山小
（4名）城北小・北中・城東中
弦楽：15名 水曜日1.5時間
（1名）城北小・倉真小・上内田小・
西山小・東中・静岡中央高
（2名）第一小・西郷小・桜が丘中
（3名）第二小
合唱：7名 土曜日1.5時間
（1名）第二小・桜木小・北中・桜が丘中・
大須賀中
（2名）第一小

指導者の基本情報

吹奏楽：28名
元教員2名、地元吹奏楽団員13名、
大学生13名
弦楽：5名
浜松市民オーケストラ団員2名、
大学生3名
合唱：4名
元教員2名、大学生2名
※指導員はその時々で変更がある。

活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 143万円
参加費年額
吹奏楽 36,000円/人
弦楽 36,000円/人
合唱 24,000円/人
賛助会員 2社
（1万円 1社／3万円 1社）
令和5年度 以下の助成金の交付を受けました
①東アジア文化都市地域連携プログラム認定
287,000円
②スポーツ安全協会スポーツ活動等
普及奨励助成事業 234,000円



IV. 課題と今後の方針

※前項の中でも取り上げたとおりである。

部活動の地域移行は、机上ではどうにでもなることだが、結局は人が意思を持って動かないことには現実的に前進していかない。また、企業でもない限り、こうした受皿を支えるのは、スポーツを含め仕事をリタイヤした退職者が中心で運営しているのが現実であり、永続的にこの活動を支えていくための組織づくりは急務である。ただし、その手立てを考えるのは容易なことではない。当面の課題である、指導者/楽器/活動場所/財源をどうするかは急務であるが、長期的な視点での議論や検討こそが衰退を防ぐための必須項目である。

吹奏楽・弦楽・合唱の3分野は、学校の芸術教育とも密接に繋がっている。この分野の永続的な発展に寄与していくことこそが、我々の責務であると考えている。以上を踏まえ、今後の方針の柱を決定した。

- ①指導者育成プログラムの計画と実施（吹奏楽・合唱・弦楽）
- ②指導者連絡協議会に替わる組織づくり（吹奏楽・合唱）
- ③掛川市教育委員会、掛川市文化財団と連携しながら、「掛川ジュニア吹奏楽団」設立へ向けたシミュレーションの計画と実施
・拠点校を中心とした分科活動の実施～楽器講習会/生徒交流会の実施/活動場所の課題
- ④弦楽分野活動の指導者育成
- ⑤合唱分野～この地域移行を機会に、合唱クラブを立上げ学校内において活動が出来る仕組みを考えるとともに、モデル校において活動を展開し検証する。
- ⑥地域クラブ地域移行について中学生の座談会を開催する。

第1回成果発表会



弦楽塾



楽器講習会



合唱塾



楽器講習会



吹奏楽指導者連絡協議会





【事例集紹介】

「文化庁活動の地域移行に関する実践研究事例集」

～令和4年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業より～

～令和3年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業より～

